

令和6年度 病害虫発生予察情報

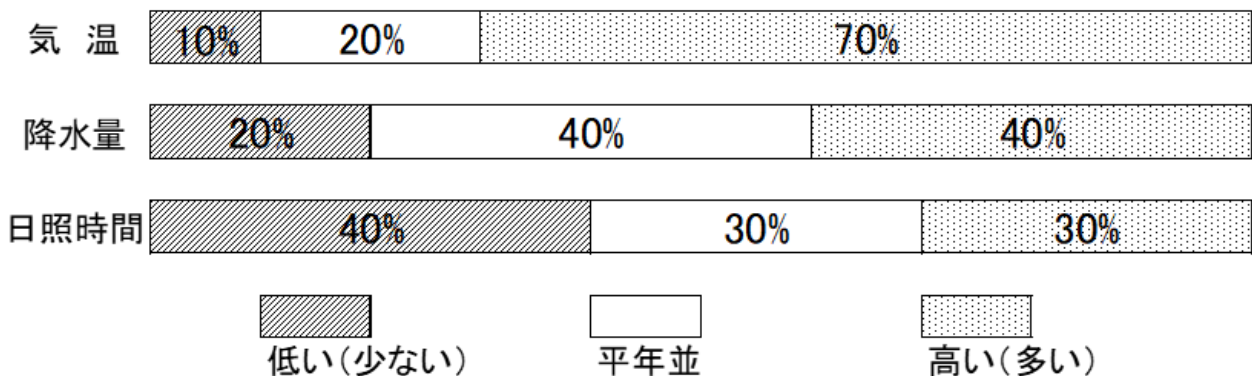
発生予報第5号（7月下旬～8月中旬）

令和6年7月16日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		穂いもち	平年並		
		紋枯病	平年並～やや多い		
		白葉枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並		
		ヒメトビウンカ	やや少ない		
		ニカメイチュウ	やや少ない～平年並		
		ツマグロヨコバイ	やや少ない		
		セジロウンカ	平年並～やや多い		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	平年並～やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	少ない～やや少ない
				黒星病	少ない～やや少ない
				シンクイムシ類	やや多い
ハダニ類	やや少ない～平年並				
アブラムシ類	平年並				
	カキ	うどんこ病	やや少ない～平年並		
		チャノキアザミウマ	平年並		
		果樹全般	カメムシ類 多い		

中国地方1か月予報(7月13日～8月12日・広島地方气象台7月11日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 7月上旬の巡回調査（70ほ場）では発生を認めていない（平年の発生ほ場率 2.9%、発病株率 0.8%）。
- ② 県内の一部ほ場で発生が確認されている。
- ③ 6月28日～7月2日を中心に感染好適日が出現している。
- ④ 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月上旬の巡回調査では、発生ほ場率は4.3%（平年3.7%）、発病株率が0.3%（平年0.4%）と発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月上旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 媒介虫のヒメトビウンカの発生量はやや少ない～平年並みと予想される。
- ② 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（平年0.9%）と低い。
- ③ 県内の一部で発生が確認されている。

(6) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は26.1%（平年56.5%）、捕獲数は1.6頭（平年9.1頭/50株）と発生量は平年と比べてやや少ない。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(7) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は0.0%（平年6.4%）、被害株率は0.0

- %（平年 0.3%）と発生量は平年と比べてやや少ない。
- ② 7月第2半旬までの予察灯（出雲市）、フェロモントラップ（出雲市）における誘殺数は平年並みである。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は26.1%（平年 40.7%）、捕獲数は2.8頭（平年 5.7頭/50株）と発生量は平年よりやや少ない。
- ② 7月第2半旬までの予察灯（出雲市）での誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(9) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は93.5%（平年 65.2%）、捕獲数は34.2頭（平年 49.2頭/50株）と発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 7月第2半旬までの予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）での誘殺数は平年と比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は0.0%（平年 5.0%）、捕獲数は0.0頭（平年 1.0頭/50株）と発生量は平年並みである。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.2%（平年 2.4%）、被害株率は0.04%（平年 1.75%）と発生量は平年並みである。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月12日に出穂している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、カメムシ類合計で発生ほ場率は57.1%（平年 83.6%）、平均捕獲虫数は9.4頭/20回振り（平年 9.0頭）と発生量は平年並みである。例年、主要種はアカスジカスミカメであるものの、大型のカメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、イネカメムシなど）の発生が認められる。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）での斑点米カメムシ類（アカスジカスミ

カメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ)の合計が77頭(平年124.5頭)と平年に比べてやや少ない。

③イネカメムシの発生は令和3年～令和5年に比べて発生ほ場率は50.0%、平均捕獲虫数は8.2頭/20回振りと発生量は多い。

④向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

注)令和6年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第1号 参照。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯

発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

①6月下旬の巡回調査では、発病葉率2.4%(平年6.4%)と、発生量は平年に比べて少ない。

②向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

①6月下旬の巡回調査では、発病葉率0.2%(平年1.0%)と、発生量は平年に比べて少ない。

②向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 やや多い

予報の根拠

①フェロモントラップ(安来市、出雲市)でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、7月第2半旬までの誘殺数は平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

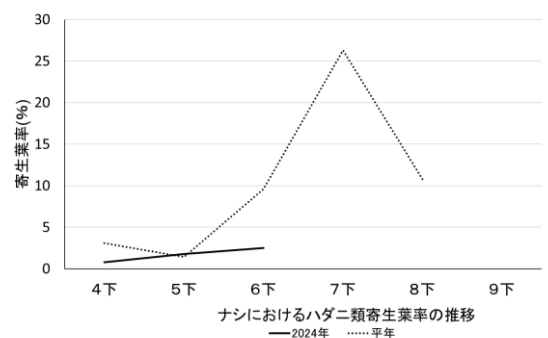
発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

①6月下旬の巡回調査では、寄生葉率2.5%(平年9.6%)、寄生虫数3.8頭/50葉(平年18.7頭)とやや少ない(右図参照)。

②向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。



(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

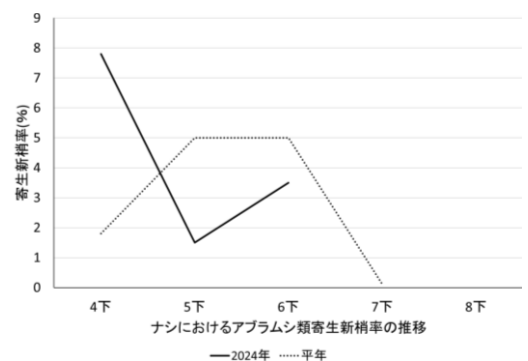
発生量 平年並

予報の根拠

①6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率3.5%(平年5.0%)、寄生度1.3(平年2.1)と平年並みである(右図参照)。

②黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。

③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量(感染量) やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率 0.2% (平年 0.1%) であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 露地ほ場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

3) 果樹全般(カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域(特にナシ無袋、カキ栽培地帯)
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月第3半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は9,133頭(平年464.9頭)と平年に比べて多い。
 - ② 7月13日の巡回調査では被害果率13.1%(平年0.3%)と多い。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。
- 注) 令和6年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号 参照

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp